

## 第 72 回 国際理解・国際協力・多文化共生のための高校生的主張コンクール東京都大会 銀賞

東京都立国際高等学校 3年

渡邊 瑠莉

### 課題①

今年は国連創設 80 周年。分断や対立が深まる中、国連が国際社会の利益に応えるために必要なことは何か。

### 副題

なし

国際連合。この組織が存在するための目的の一つに、「国際の平和と安全を維持すること。」と国連憲章に明記されています。ですが、今日の世界は平和で安全と一概にまとめられるのでしょうか。ロシアがウクライナを侵略してから早くも四年が経とうとしています。さらにはパレスチナ問題やシリア内線など今も世界中で争いは止みません。そんな世の中だからこそ、国連が全世界の人の平和と安全を維持すべきだと私は考えます。

ロシアがウクライナを侵略し始めた頃、私の中学校にウクライナから四人の中学生が避難してきました。正直私は戸惑いました。どのように接したら良いのだろうか。一緒に授業を受けられるのだろうか。そんな私の不安もよそに、私のクラスが迎え入れた二人はキラキラの笑顔で教室に入ってきてくれました。幸運なことに、私は二人のお世話係を任せてもらい、その日から二人と中学校ではずっと一緒にいられるようになりました。二人はすぐにクラスに溶け込み、ウクライナから避難してきたのだと忘れてしまうほどでした。しかしある社会の授業に日、先生たちが何やら深刻そうな顔で話していました。すると、二人の元へ来て、「戦争の内容を授業で扱うから、何か怖い気持ちになったら手を挙げてね。」と話しかけていたんです。そのとき私は胸を打たれたような感覚でした。二人は戦争など身近に感じたことのなかった私とは違い、悲惨な経験をしていたのだと。その授業中、私は二人の背中からいつもとは違う、不安な雰囲気を感じました。しかし二人は授業が終わるといつも通り明るく楽しそうに話しかけてくれます。私はこの時思いました。誰だってそれぞれの人生を楽しみ、思い出をつくる権利があるのだと。その思い出を奪うのは簡単です。だけど、人々の楽しみを奪ってまで、実現できることとは何なのでしょう。もちろん、世界には様々な文化を持った人が共生しているため、価値観のすれ違いや言語の壁が世界的な争いをおこしてし

まうのは免れかねます。国家単位で考えたことが本当に良い社会をつくることにつながるのでしょうか。一人一人が思い出の詰まったオリジナルの人生を送ることのできる世の中こそが、世界の目指すべき姿だと考えます。

クラスメイトのウクライナの子の一人は今、ウクライナの大学に通っています。危険ではないのかと私が聞くと、危険な場所もちろんあるけど彼女は安全な場所で生活しているのだと教えてくれました。さらにこのレポートを書く事も伝え、私が考える国連が目指すべき像について、世界中の個人を考慮すべきと考えていることを伝えました。すると、彼女は私の考えに共感しつつも、皆に耳をむけていると、絶対に何も解決することができないだろうと言ってくれました。確かにそうです。国際社会に平和を届けるのに全員を考慮するのはもちろん大切なことです。しかし、そう言葉では言えても学級の意見をまとめるのも難しい社会で、世界中の人々を統率するのはハードルが高すぎるのです。だけど、国連は全世界の人々の平和と安全を守るべきという私の意見は変わりません。

避難してきた子の一人は今、私と同じ高校で学校生活を送っています。彼女もいつも廊下で会うと元気に挨拶をしてくれます。ウクライナから来た友達が教えてくれたのは、とにかく、一人一人は楽しく生きる権利があることを忘れてはいけないということです。それを考慮すれば、少しでも他国のことにも干渉して、支援を呼びかけようと行動に移すことができるのではないのでしょうか。

意見の対立は当たり前です。しかし、その意見の対立に国民一人一人が巻き込まれることは国連が保護すべきだと思います。八十年の歴史をもつ国際連合。世界の平和維持を義務とされている、国際的な組織だけにしかできないことは、無数にあるのではないのでしょうか。世界は価値観の違いから形作られるものです。その世界の形成の手助けをすることこそが、国連に求められているのだと私は考えます。